

2025（令和7）年度埼玉県・オハイオ州スカラシップ

11月レポート「温かいつながり」

令和7年度奨学生 田中碧

みなさま、こんにちは。11月に入り、オハイオでは本格的な冬がやってきました。まずは冬の様子についてお伝えします。

◦ オハイオの冬

11月になると、早速雪が降り始めました。気温は基本的に一桁台で、時にはマイナスになることも珍しくありません。アメリカでは気温に摂氏ではなく華氏が使われるため、例えば 0°C は 32°F と表記されます。初めのうちはややこしいと感じていましたが、徐々に慣れてきました。

冬を過ごすうえで気を付けなければならないことが、風の強さです。オハイオでは頻繁に強い風が吹くため、実際の気温よりも体感温度はさらに低くなります。そのため防寒着の備えは重要で、厚手の上着だけでなく、ニット帽や手袋を付けている人がたくさんいます。12月や1月はより寒くなるとのことなので、対策をしていこうと思います。



◦ 週末の旅行

とある週末には、現地生の友人のホームタウンで2泊3日の小旅行をしました。この場所で特徴的だったのが、ヨーロッパからの移民集団であるアーミッシュの文化をところどころで垣間見ることができたことです。この集団は馬を使って移動することで有名で、実際に街中の道路で馬を見ることができました。アーミッシュの伝統的な生活をする人の中には、今でも携帯

電話を持たずに生活する人もいるそうです。画像のアフタヌーンティーのカフェは、欧風の食器や家具に囲まれとても華やかでした。

友人の家ではたくさんの動物と戯れることができました。アメリカでは日本と比べ多くの家族が動物と共に暮らしており、複数飼っている家庭も少なくありません。友人は、猫8匹、犬3匹、モルモット4匹を飼っており、とても賑やかで楽しい時間を過ごすことができました。

また、メープルシロップを生産している場所でシロップの食べ比べなどもできました。寒い地域ならではの場所を訪れることができ良かったです。



◦ 小学校訪問

11月中旬には小学校訪問を行いました。これは毎年留学生向けに参加者を募っているプログラムのようで、2時間ほど小学校に滞在して、自分の母国について話したりゲームをしたりして子供たちと交流しました。

奨学生として異文化交流をするうえで、特に子供との交流を積極的に行いたいと思っていたため、Genki Kids に続きこのような機会を得られてよかったですと感じています。現地の子どもたちは好奇心が旺盛でたくさんの質問を投げかけてくれるため、とてもかわいらしく濃い時間を過ごすことができました。

◦ サンクスギビング

11月最終週の27日はサンクスギビングのため、26（水）から30（日）までの5日間休暇がありました。現地の生徒はほとんどが帰省をし、Fall break以上にキャンパス内は閑散としていました。この期間はアメリカ全体が休暇の体制に入るため、食堂も営業しておらず街中のお店も営業時間が短縮されます。留学生の私にとっては少し寂しい期間もありました。ですが、食堂スタッフの一人の方が私たち留学生向けにサンクスギビングメニューを用意してくださったり、キャンパス内の教会でも27日当日にランチの会を開いてくださったりなど心温まる場面も多くありました。サンクスギビングではターキーやマッシュポテトなどが定番メニューとして出されるようで、私もそのような料理を楽しむことができました。

28日からは街が一気にクリスマスの装いになります。ダウンタウンではツリーの点灯式が行われとても綺麗でした。



クリスマスシーズンは一年の中でも特に好きな時期です。アメリカで過ごす12月がどのようなものになるのか、今から期待に胸を膨らませています。



本プログラムやフィンドレーでの生活に関して何か気になることがございましたら、
tanakam1@findlay.eduまでお気軽にご連絡ください。
少しでも皆様のお力になることができれば幸いです。